

プロフィール



| | |
|------|--------------|
| 名前 | 李 智博 |
| 所属部署 | 神戸大学大学院農学研究科 |
| 職種 | 准教授 |
| 着任日 | 2013. 5. 1 |
| 出身地 | 大阪市 |
| 趣味 | 釣り（うまい魚のみ） |

インタビュー

Q1 現在の仕事内容を教えてください。

有性生殖にとって重要な減数分裂に興味があり、その染色体の特有な動きを制御する分子メカニズムを調べています。特に今現在はコヒーシンやコンデンシンと呼ばれるタンパク質複合体に焦点をあてて、細胞生物学的な観点から研究を進めています。今後はもう少し研究の幅を拡げていく予定です。

（副業）魚を釣ってから捌くまでが私の仕事、その後の料理は嫁さんの仕事。

Q2 研究者になったきっかけは何ですか？

指導教員との相性、研究テーマとの相性が良かったことが大きかったと思います。考えることがわりと好きな性格でもあるので、それもあるかもしれません。

Q3 今、気になっていることを教えてください。

- ・減数分裂において、相同染色体はどのようにして正しいパートナーを認識し、結合を確立しているか？
- ・有性生殖（減数分裂と受精）の意義とは？細胞はその前後あるいは最中でどう変わるか？
- ・日本の大学教育はどこへ向かっていくのだろうか？
- ・いつ、どこで（神戸周辺）、どんな魚が釣れているか？

Q4 研究職を目指す学生さんへ

私の体験に基づく考えを書きます。一意見として、少しでも参考になればと思います。私が博士課程へ進学を決めたときには、『博士号を取得後に何回かポスドクを経験してから研究所か大学のパーマネント職に就ければいいな』と考えていました。実際に、任期制の職を転々と13年間経験したあとに現職につけたので、私は非常に幸運だと思います。皆さんご存知のように、博士号を取得しても、なかなかアカデミックなポストを得る事は難しいのが現状です。ポスドク時代に私が職場を選ぶときに考えていたことは、自分のしたい研究ができるかどうか、自分の習得したいものがあるかどうか、という2点だった気がします。業績は研究者として生きて行くには非常に重要なのですが、この2点を抑えて研究を続けられれば、業績は後から付いてくるように思えます。研究者というのは『○○の研究をしている人』として世間に認識されるので、自分の研究を続けていくことは大事だと思います。とは言っても、自分の研究をさせてもらえるポスドクの職を見つけるのも難しいのですが、早めに自分から動いてコンタクトを取れば、世の中に助けてくれる人はいるものです。